

人間じんかんにう生まれて

“つながりを生きよう” 323

南無阿弥陀仏の根拠は

「大無量寿経」にあります。

なぜ、親鸞は『大乘無量寿経』の中に念仏一つと言えたのか、どんな人が『大無量寿経』が真実教だと見だし、どんな人が伝えているのか、どういう人たちが教えを深めていったのか、南無阿弥陀仏の歴史が『正信偈』のテーマなのです。

瓜生 崇

祠堂経当日までに蠟燭代、

祠堂経御仏米志、懇志、お花、お供物、境内の整備をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

気候もちょうど良く、正忌を迎える方々の追悼法要では皆さんと阿弥陀経を唱和させていただきました。午後からは「大無量寿経」を三回に分けて少しずつ皆さんと読みました。講師の瓜生崇さんが今年の法話テーマの「立教開宗」を含ませて、なぜ「大無量寿経」を読むのかを懇切丁寧にお話

しくございました。

なお、私住職は祠堂経の準備途中に二階ほどの庭木から滑り落ち、鎖骨を骨折してしまいました。痛みは酷くなく、祠堂経終了後手術をして回復しております。気の緩みからでした。今後気をつけて作業いたします。又留守中は若院や坊守が寺役をして、滞ることのないよう努めて下さいます。皆様に御心配御迷惑をかけたこと陳謝いたします。

今年は、人生はじめて梅干しづくりをしています。失敗するほ

ど上手になると励ましをいただき、なぜが作業中にも口の中が酸っぱくなってきます。

滝の音は

たえて久しくなりぬれど

名こそ流れて

なほきこえけれ

藤原公任

梅干しの酸っぱさを思うように、暑さに向かう中、滝の水を思出すことで涼しさを感じるようにしたいものです。

7月真敬寺行事予定

- 7日(日) 日曜学校 午前9時
 10日(水) 正信偈の会 午後1時半
 17日(水) 定例聞法会
 井波別院法物巡回
 午前・午後
 法話 月光真さん
 * 祠堂・万人講などの寄付で
 井波別院を支援する別院からの出張法話です
 21日(日) 日曜学校 午前9時
 28日(日) 日曜学校 午前9時

祠堂経法会法話の聞書

立教開宗800年『大経』から

瓜生 崇さん

滋賀県大津市玄照寺住職



『南無阿弥陀仏の根拠は大経』

源信僧都と法然上人は同じ念仏を大事になされた方なのですが、亡くなられた後、源信僧都は比叡山で大事にされたのですが法然上人は墓を暴かれるまで迫害された方なのです。

どこが違ったのでしょうか。

法然上人は、念仏でも「専修」を唱えた人なのです。

「専」もっぱら「修」おさめるとは「これ以外にはありません」ここで法然上人は「お念仏だけを修める」「念仏よりほかにはありません」「お念仏が我々のすくいであって、それ以外のものので我々がすくわれることは絶対はない」といわれたのです。「この末法の世の中でお念仏以外に私たちのすくわれることはないのです」と言ったのです。

源信僧都は「ここまでのごことは言っていないのです。いろんな「行」とか「修行」とか、いろんな覚りに向かったの方法とかを否定しなかったのです。一方、法然上人はお念仏以外で我々がすくわれることはないと言いつた人なのです、法然上人が初

めてそう言いきった人なのです。

七高僧は皆念仏を大事になさっておられますが、ここまで言い切っておられるのが法然上人なんです。末法の今の世においては念仏以外にすくいの道は残されていない、だから念仏以外はすべて捨てなさいといわれたのです。これでみんなびつくりしたんですね。

お念仏一つと言われたらみなさんも抵抗があるでしょうか？

皆さんのすくいは何でしょうか？ 家族？ 子供？ 孫？ 二ヶ月に一遍振り込まれるあのお金？ と色々あると思います。念仏はそれに加えて+α程度のことと思っておられるのではないですか。

法然上人は家族や子供や孫やお金で本当にすくわれるとは言わなかったのですね、南無阿弥陀仏しか

ない。念仏以外の行によってすくわれると思うという幻想は捨てなさいと言われたのです。これが宗教界の大反発を受け、批判されるんです、当時一番よく言われたのが「偏執」(偏って執着している)と言われたんです。我々と違い、法然上人ははつきりと言い切った人だったんです。

そのことが「承元の法難」(教団の解散請求みたいなもの)にまで発展して、お弟子の二人が死罪、法然と親鸞聖人が流罪になるのですね。それらの処分について『歎異抄』『後序』にははつきりと書かれてあります。

親鸞聖人の書かれた『教行信証』の「後序」にはそのことをものすごい怒りを込めて書かれています。



今回のテーマなのですが、『正信偈』には『大無量寿経』の教えが書かれてあるのです。親鸞聖人は『大無量寿経』を「真実教」ととらえ、南無阿弥陀仏の根拠になるのはこのお経だと言っています。

なぜ、『大無量寿経』は「念仏一つ」の教えだと言えたのか、『大無量寿経』が「真実教」だと、どんな人が見いだして、どんな人が後世に伝えているのか、どういう人が教えを深めていったのかという南無阿弥陀仏の歴史が書かれてあるのです。これが『正信偈』のテーマなのです。

この『正信偈』を広く展開されたのがこの『教行信証』なのです。

親鸞聖人は当時の念仏批判に対して、南無阿弥陀仏はいい加減なものではない、ちゃんと仏教なんだ、仏教でいうところの「真仮」で言え

ば「真」なのだ、それを表すためにこの本を著したんです。

親鸞聖人は『教行信証』の中に、南無阿弥陀仏は「すくい」であって、その「すくい」の根拠は『大無量寿経』にある、その『大無量寿経』が真実である事をたくさんの方が明かしてくださっていることを『教行信証』の中に書いているんですね。法然上人の弟子が弾圧され、法然教団がもう絶えてしまうんじゃないか、法然上人の教えをちゃんと残しておかないといけないとの危機感があったのでしようね。法然上人の教えは仏教の歴史の中にちゃんと位置づけられる教えであって、これがお釈迦様の教えなんだと思われたのでしょうか、

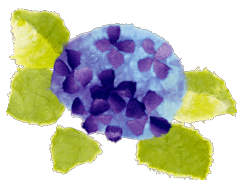
当時の親鸞聖人は今ほど有名な方でもなかったので、親鸞聖人のことを知っている人はほとんどなかった

たと思います。『教行信証』を書いたところで誰が読んでくれるかわからない、でも多分自分がやらなかったら、やれる人は絶対いないだろうし、もつと言えはこうやって書き残しておけば百年経ち千年経ち、誰かがこれを見いだして浄土の教えを復興してくれるかもしれないと親鸞聖人は思ったのではないかと思えます。

おかげで私たちは八百年たった今、教えにふれることが出来るのですね。

実際のお話は
YouTube で
視聴できます

下の QR コーを
お読みください



7月の聞法会は

17日(水) 午前9時30分～ 午後1時30分～

井波別院法物巡回

*祠堂・万人講などの寄付で井波別院を支援する
別院からの出張法話です

法話 講師 月光 真 さん

(氷見市聞行寺住職)

孫のおしゃべりが増えてきました。「ねえねえ」とたどたどしい発音で片言のお話し(しているつもり)です。「○○なが?」と聞くとコックリと大きくうなずいてくれます。

しかしまた、言いたいことが通じないとか、要求が通らないとかで大泣きすることも増えたようです。「なんで、だめなが」 「なんで、わからんが」という心の声が聞こえるよう。

自我は人が生きる力であると同時に苦しみの根っこでもあるのですね。孫は、いよいよ人間として歩んでいくのだなあ。「仏さんがいつもそばにいられるよ」と声をかけられるおばあちゃんでありたいと思えます。

南無阿弥陀仏

(坊守より)

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440
真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修
0763-52-0196 携帯電話090-3760-569



shinkyouji.com

検索

